

大腸内視鏡挿入法の勉強会

今年はネット配信も 浩生会スズキ病院

江古田の浩生会スズキ病院（鈴木浩之院長）では4月16日、同院2階内視鏡研修センターで大腸内視鏡挿入法の勉強会を昨年に続いて開催した。

この勉強会は、原則、毎月第2木曜日に開催されたことから「二木会」と命名されたもの。今年も、師範の技を披露し学ぶ「マスターズ」編・第5回目「二木会」として開催された。

同日は、全国から約30数名の医師が参集。医師自身が患者役を務めてモニター画像を見ながら説明、それに対して質疑応答を交わすという実践授業を披露。今年も要望に応え、ネットでも配信した。

リーダーは今年も、大腸検査では世界的権威である鈴木康元医師（横浜・松島病院勤務）が担当、スズキ病院からは鈴木院長、福島正嗣医師、古渡技師が参加した。

大腸内視鏡検査は、検査の中で最も難しいといわれ、患者の負担も大きい。医者によっては、挿入手法や時間がバラバラ。二木会では、理想的な挿入手法の開発・伝授

と3分以内での挿入、10分以内での検査終了というスキルを目指して開催されてきた。

鈴木院長は「東日本大震災の影響や新しくネット配信で見られるようになったことから、先生方の参加数が昨年より少なかったが、二木会のレベルと研究成果は年々高まっている」と語っていた。

今年も（3年連続）

二木会マスターズが

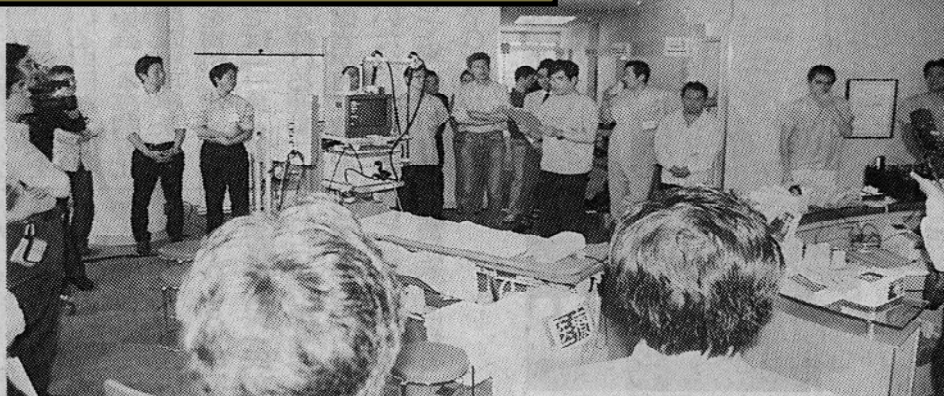
浩生会スズキ病院

2階健診センター 於

開催されました。

平成23年 4月23日 付

練馬新聞掲載より



今年はネット配信もあり、師範級の内視鏡挿入法を広域学習